

学術資源研究公開センター

(2)その他、特筆すべき教育・研究・診療・社会貢献活動等への取組と成果、世界的位置付け(ISI citation など)など。* ISI データのない場合は、可能であればいろいろな指標を使って国内的位置づけを示す。

| 分野 | 取組と成果、世界的位置づけ | 18年度の状況 |
|---------------------------|---|---------|
| <p>特筆すべき教育活動</p> | <p>1.センターでは各業務組織の展示等の教育利用に努めている。全学教育科目・専門教育科目あわせて、総合学術博物館(共用する理学部自然史標本館)で11教科・21回、史料館で1教科、植物園(八甲田分園含む)で8教科・64回の利用があった。</p> <p>2.各施設では、他大学や小・中・高等学校の授業利用にも努めており、総合学術博物館は3大学、小・中・高あわせて49校、史料館は1大学、小・中・高2校、植物園は3大学、小・中・高11校の利用があった。また、各組織とも社会学級や地域子ども会等にも広く活用されている。</p> | |
| <p>特筆すべき研究活動</p> | <p>1.センターの各業務組織では、保管・管理を行っている資料・標本の研究のための閲覧・貸し出し等を行い、それらの研究利用の促進を図っている。</p> <p>2.史料館では、日本ではまだ完全に確立されていない、大学文書館における歴史的公文書の評価・選別方法の確立をテーマとした共同研究に参加している。18年度は国立大学の文書館関係者を中心とする共同研究の研究会を9月に開催した。</p> <p>3.植物園では、植物園を利用して行っている各種研究について、その成果を取り纏め、また、研究成果の普及を計るために、「植物園利用研究成果報告会」を開催している。</p> <p>4.学術資源研究公開センターに所属する3名の助手は、東北大学附属図書館協力研究員として、貴重図書選定・修復保存の検討や目録データベースの作成を行い、図書館業務を支援した。</p> <p>5.米倉浩司助手は「タデ科、ヤナギ科の分類および日本植物和名・学名データベースの構築」により日本植物分類学会第1回奨励賞を受賞した。</p> | |
| <p>特筆すべき社会貢献活動</p> | <p>1.常設展示のほか、東北大学総合学術博物館のすべて「発祥の地東北の情報エレクトロニクス・リサーチ：歴史と最先端そして夢」、同「脳のかたち 心のちず - 東北大学・脳の研究・心の研究」、「学都仙台明治の学生群像 - 東北大学がなかった頃」(史料館企画展)などの企画展を開催し、また、いくつかのミニ展示の開催や他展示会への協力を行い、東北大学の研究成果や歴史の普及に貢献した。</p> <p>2.総合学術博物館公開講演会3回、同公開講座全4回、植物園公開市民講座全8回、植物画講座2回を開催したほか、いくつかの講演会・講座等を開催し、また、他組織の開催に協力した。</p> <p>3.植物園・文学研究科共催で、植物園内で「紅葉の賀」を開催し、580名の参加者があった。</p> <p>4.史料館では、保存期間を満了した大学の歴史的公文書の評価選別、受入、公開体制の整備を進め、大学の歴史的情報の整理と一般公開への貢献を行っている。平成18年度からは、大学全体の法人文書管理細則の改正に伴い、評議会記録など従来永年保存とされてきた大学の重要な歴史的公文書を含む形で大学公文書の受入を行った。</p> | |